

2019 瑞穂小 学校研究

1 研究主題

自分の言葉で表現できるみずほっ子を目指して

～論理的思考の基盤となる言語能力の向上を図る国語科・算数科の研究～

2 主題設定の理由

昨年度は、論理的思考を基盤とし、表現力の育成まで視野に入れた国語科の授業を中心に、学校研究に取り組んだ。その中で、相手意識を持ちながら、自分の考えを理由や根拠も併せて述べたり、つなぎ言葉（接続詞）を使いながら、自分の考えを筋道立てて伝えたりすることができる児童が増えてきた。また 1 つの情報からだけでなく、複数の情報を関連付けて考える「深い学び」の姿も見られた。

しかし、自分の考えを書いたり発表したりすることに消極的な児童もいることや、論理的な思考力の育成には一定の成果が見られるも、最終的に目指す「自分の言葉で表現できる児童」への育成がまだ充分でない。

そこで、論理的思考の基盤となる言語能力に焦点化し、さらに国語科だけでなく算数科において計画的に研究を進めることとした。また、授業の中でふり返りを大切にすることで、「メタ認知・自分の学び方の学び」につなげ、さらなる表現力の向上へとつなげていきたいと考える。

3 目指す児童像

今年度の学校研究で目指す児童像を以下のように考えた。

論理的思考の基盤となる言語能力を活用し、自分の言葉で考えや思いを表現できる児童

4 研究仮説

目指す児童像の実現に向け、以下の仮説を打ち立てた。

言語能力を高め表現するという視点で考えられた授業、そして自分の学び方を客観視するためのふり返りを大切に授業に取り組んでいくことで、自分の言葉で考えや思いを表現できる児童が育つであろう。

5 具体的な取り組み

仮説を実証するに当たり、目指す児童像の実現に向けた取組を以下のように考えた。

1 言語能力を高め、表現するために

STEP 1 情報を取捨選択したり、関連付けたりする。

・複数の資料の情報を関連させて考えたことや疑問に思ったことをノートに書く。

→知識と知識の間のつながりを捉えて構造化することが、活用できる概念の理解につながる。【個別の知識・技能】

・ノートには、自分の考えを広げて検討したり、メモをとったり資料を貼付したり、音声や板書によって提示された複数の情報を整理・構造化したりする。

・情報を読みとり吟味したり、知識と関連付けながら目的に応じて表現したりすることで、見方や考え方を獲得する。

国語…気持ちを表す叙述に着目し、心情の変化を複数の場面から捉える。また、段落相互の関係や文章と図などを関連付けて読むような、読みを深めていけるような指導をする。

算数…図やグラフ・表と式などを関連付けながら説明できるようにしたり、友だちと意見を交流したりするよう指導する。

→言語を通じて考えを構築したり目的に応じて表現したりすることで、教科に根ざしたものの見方や考え方の獲得につながる。【思考力・判断力・表現力等】

STEP 2 整理した情報を効果的に配列する（筋道立てる）。

- ・疑問と答え，事実と意見，具体と抽象，原因と結果，共通点と相違点などの関係性を整理し，必要な情報を適切に配列し，筋道を立てる。
- ・つなぎ言葉（接続詞）の指導をする。【プログラミング的思考とのつながり】

STEP 3 自分の言葉で表現する。

- ・論理的に思考したことや解釈したことを，実際に表す。（音声言語・文字言語）
- ・自分の言葉に言い換えて分かりやすく説明する。

2 学びを深めるために

STEP 1 授業の内容に関連したふり返しをする。

- ・指定された用語・叙述等の引用・友だちの意見等
→キーワード・算数用語を用いてふり返ることで，本時や単元の学びの定着が図られる。

STEP 2 課題の学び方に関するふり返しをする。

- ・この時間の中で，何がわかって何が不十分だったか。
→自らの思考のプロセスを客観的に捉える力（メタ認知）は心理や思考のプロセスの言語化を通じて行われる。
【学びに向かう力】

3 主体的・対話的で深い学びのために

STEP 1 主体的な学びのために

- ・児童が見通しをもったり，学ぶ意欲が高まったりするような，授業づくりをする。
国語…付けたい力を明確にし，その力の習得に向けた単元を貫く言語活動の設定をした授業づくりをする。
算数…学習の目的意識を明確にし，課題をもって取り組むことができるような授業づくりをする。（課題発見型）

STEP 2 対話的な学びのために

- ・反応を表しながら聞く。
- ・グループ交流を取り入れ，対話型の話し合いを行う。
→はじめは反応の姿の定型を取り入れることから始め，少しずつ自然な反応へと変容させていく。
言語を通じていろいろな価値観や背景をもつ人々が関係性を築いていく中で，他者とのコミュニケーションを支えるものとなる。【コミュニケーション能力】



参考資料：21 世紀に求められる資質・能力の構造一例
引用元：国立教育政策研究所
[国研ライブラリー]資質・能力 理論編

6 研究構想図

学校教育目標
主体的・対話的に深く学び、共に高め合う児童の育成

「学校教育の指導指針」の重点
学びの12か条+

学校教育目標を通して目指す児童像
・よく考え、進んで学ぶ子 ・やさしく思いやりのある子 ・健康でたくましい子

スローガン
「よく考え、進んで取り組み、すなおに表現する」

研究主題
自分の言葉で表現できるみずほっ子を目指して
～論理的思考の基盤となる言語能力の向上を図る国語科・算数科の研究～

学校研究を通して目指す児童像
論理的思考の基盤となる言語能力を活用し、自分の言葉で考えや思いを表現できる児童

授業づくり 第3条

研究① 言語能力を高め、表現するために

- ★情報を取捨選択したり、関連付けたりする。
- ★整理した情報を効果的に配列する。
- ★自分の言葉で表現する。

研究② 学びを深めるために

- ★授業の内容に関連したふり返りをする。
- ★課題の学び方に関するふり返りをする。

研究③ 主体的・対話的で深い学びのために

- ★見通しを持ったり意欲が高まったりするような授業づくりをする。
- ★反応を表しながら聞き、対話型の交流で問題解決に取り組む。

基盤づくり 第4～9条

- ・「聞く」「話す」「書く」「読む」態度と姿勢の醸成
- ・質の高い学び合い活動の充実 ・効果的なICT活用の促進
- ・よりよい学習、生活習慣の定着

組織づくり 第10～12条

- ・学力調査等の採点,集計,課題究明
- ・学力向上ロードマップの実施,取組の検証
- ・OJT 研修の計画,運営
- ・保護者との連携

